

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第19集

KAMISIBAMIYA

上 芝 宮

長野県佐久市長土呂芝宮遺跡群上芝宮遺跡発掘調査報告書

1993. 3

佐 久 市
佐久市教育委員会

【例 言】

- * 本書は佐久市による平成4年度市道新設事業に伴う、埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- * 調査委託者 佐久市
- * 調査受託者 佐久市教育委員会
- * 発掘調査所在地地籍
芝宮遺跡群上芝宮遺跡（略称NSK）
佐久市大字長土呂上芝宮
- * 調査期間および面積
平成4年10月6日（火）～10月16日（金）
面積 470㎡
- * 本書の編集・執筆は小林が行った。
- * 本書および出土遺物、記録類は全て佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

【凡 例】

- * 遺構の略称は次のとおりである。
H 竪穴住居
- * 図面上の方位は真北を用いた。
- * 掲載図の縮尺は遺構1/80・遺物1/4である。
- * 写真図版中の土器番号は、土器実測図に対応する。

【目 次】

例言

凡例

I 調査の経緯	
1 調査の経緯と経過	1
2 調査体制	1
3 調査日誌	1
II 遺跡の環境	
1 環境	2
2 層序	4
III 調査の成果	
1 遺構と遺物	4
IV まとめ	8

図版

I 調査の経緯

1 調査の経緯と経過

芝宮遺跡群は佐久市の北部に位置し、古墳時代から平安時代にかけての集落跡として知られている。平成4年、佐久市の市道新設事業の一環として遺跡群内の上芝宮地籍で道路造成工事が計画されたため、遺跡の破壊が余儀なくされる事態となった。そこで佐久市教育委員会が佐久市より委託を受けて発掘調査を実施することとなった。

2 調査体制

佐久市教育委員会

教 育 長 大井季夫

教 育 次 長 奥原秀雄

埋蔵文化財課

課 長 上原正秀

管 理 係 長 桜井牧子

埋蔵文化財係長 草間芳行

埋蔵文化財係 高村博文 林幸彦 三石宗一 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也

調 査 担 当 者 小林眞寿

調 査 員 和久井義雄 清水六郎 山崎直 篠崎清一

3 調査日誌

平成4年

10月2日

重機による表土除去作業

10月3日

器材搬入。基準杭設定。(X=31900.00, Y=1900.00, H=737,935)

10月6日～9日

H1号住居址掘り下げ。

10月14日

平面図作成。

10月16日

掘り方完備、平面図作成。現場調査終了。

平成5年

1月～3月

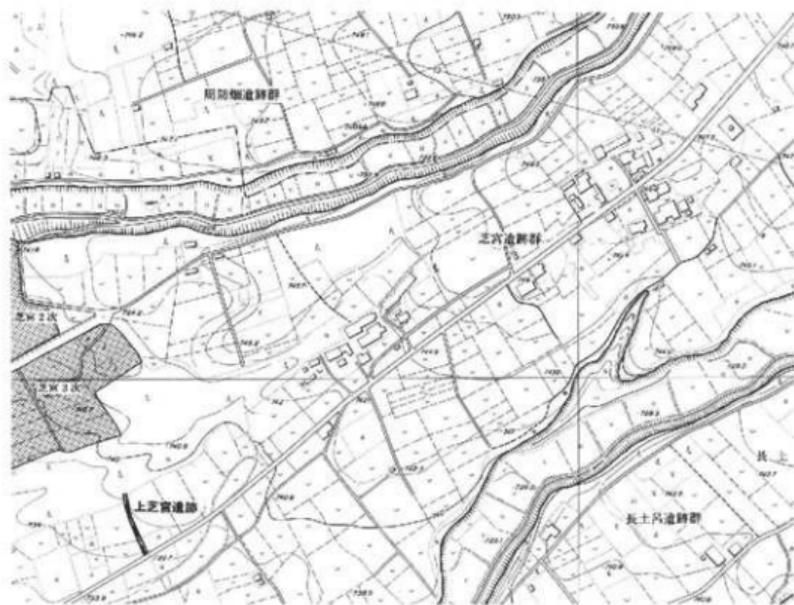
報告書作成。

II 遺跡の環境

1 環境

本遺跡群は浅間山の第一軽石流の堆積と侵食により形成された田切り台地上に立地している。このため水捌けは極めて良好な反面、保水力が低く水の侵食には著しく弱い特性を有している。このような特性を持つ土壌のため台地上には水田は展開しておらず、田切りの谷内に展開する。台地面は畑地・山林に利用されている。

広大な芝宮遺跡群ではあるが、現在までに確認されている遺跡の大部分は弥生時代以降のものが大半を占めており、縄文時代以前の集落跡は明確に把握されていない。わずかに縄文時代の落とし穴が発見されているだけである。このことは、この台地が狩猟には適しているが居住には適さない要因を当時は内包していたものと思われ、その要因の追求も今後の課題として残されている。また、反面においては古墳時代において急増する集落跡が水稻耕作に必ずしも適さない当遺跡群内に唐突に出現する背景も解明しなくてはならない大きな課題と言える。



第1図 上芝宮遺跡の位置と周辺遺跡の分布

2 層序

上芝宮遺跡の基本層序は第2図に示したとおりである。

第I層 耕作土

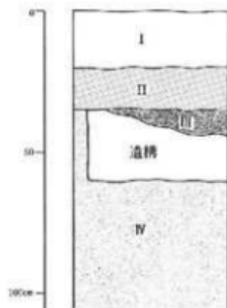
第II層 10Y R4/2、10Y R8/4ロームの混在土層。

第III層 10Y R2/2弱粘質土層。

第IV層 10Y R8/4ローム。浅間第1軽石流の堆積層。

*第3層は調査区全面に広がるものではなく
低地部分にのみ存在する。

*遺構検出面は第IV層上面で行った。



第2図基本層序模式図

III 調査の成果

1 遺構と遺物

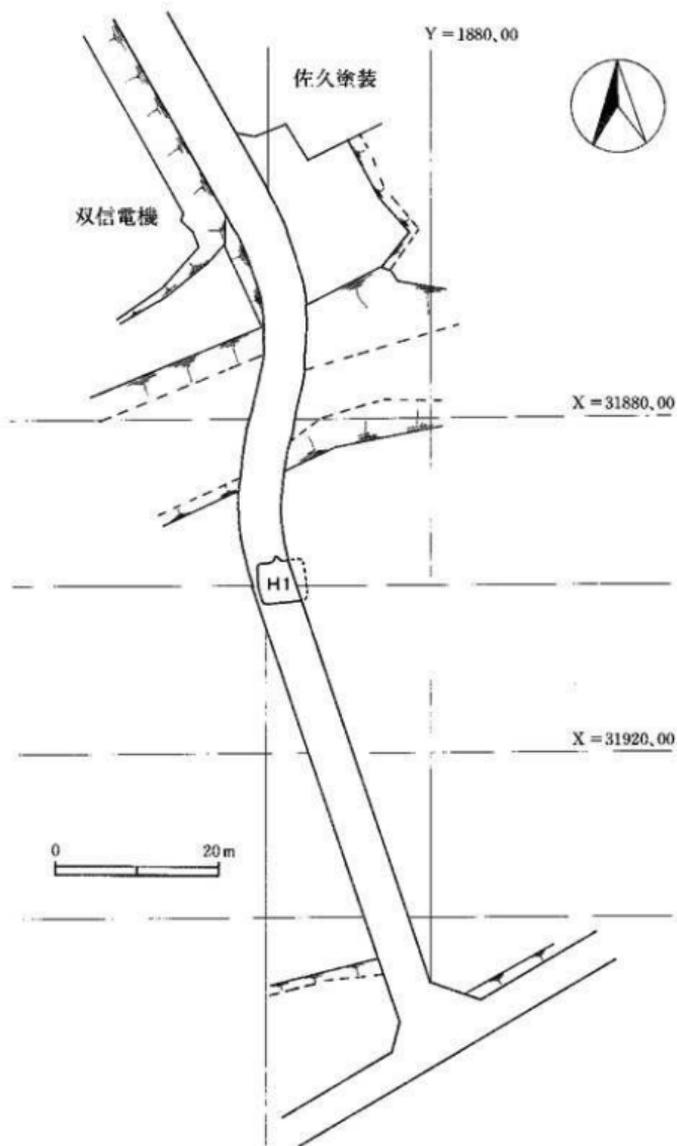
検出された遺構は竪穴住居址1棟のみである。畑1枚東方の地点でも平成4年度に試掘調査が実施されたが、遺構が皆無であること、また周辺部の地表面に遺物の散布が認められない事等からこの地域の遺構密度は希薄であると思われる。

H1号住居址 (第4図～第6図・図版一～三)

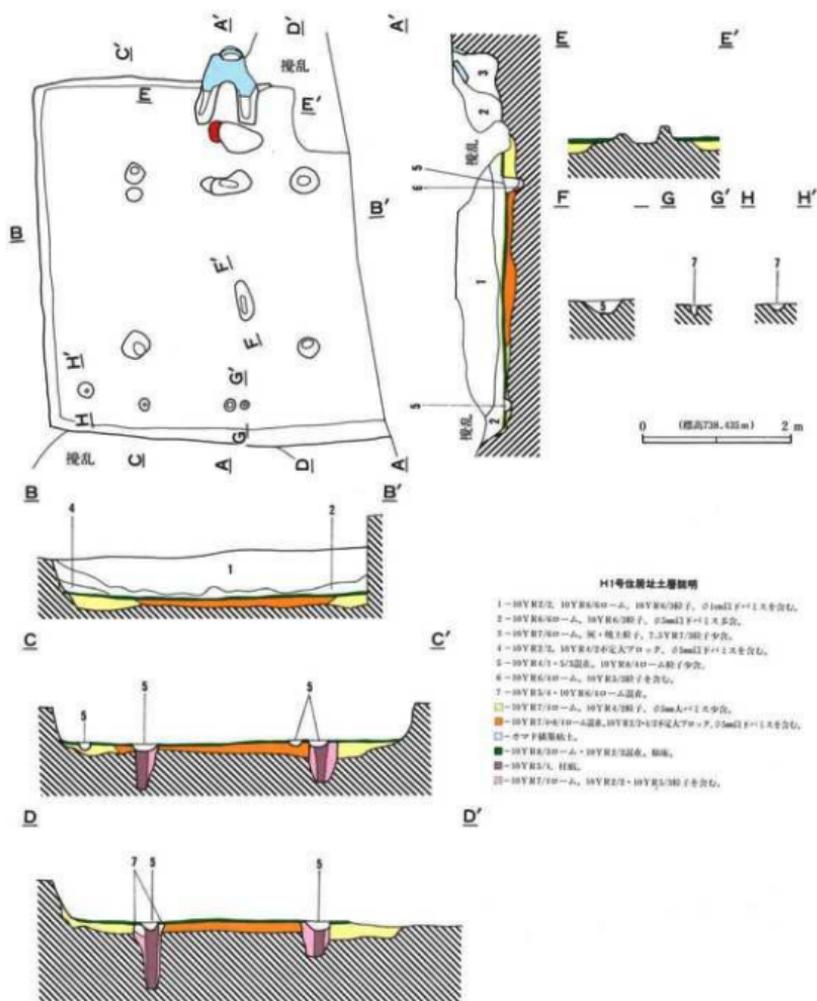
本址は調査区の中央部で検出された。本址の北方15mには、当遺跡群を区画する田切りとは別の小規模な田切りが存在する。

道路造成に伴う調査のため完掘はできず、全体の約8割が調査対象となった。調査部分に関しては他遺構との重複は一切認められなかった。しかし、現況が山林であったため木の根による擾乱が著しかった。

南北4.8m、東西(推定)4.8mの方形プランを呈し、検出面からの壁高は平均60cmを測る。覆土は4層から成る。最下層の4層は西壁際のみ堆積しており、北西・南西の両コーナー部分において最も厚い堆積を呈している。第3層は基本的に第2層と同一、同時に堆積したものである。カマド内に堆積した第3層には灰・焼土・粘土などが混入することが異なるだけである。第2層は本址の全面を被覆する初めての覆土であり、本址北側で最も厚い堆積を呈する。第1層は本址覆土の中で最も新しい覆土であり、北壁際の一部を除く全面を被覆する最も厚い堆積を呈する。



第3 图上芝宮道路全体図

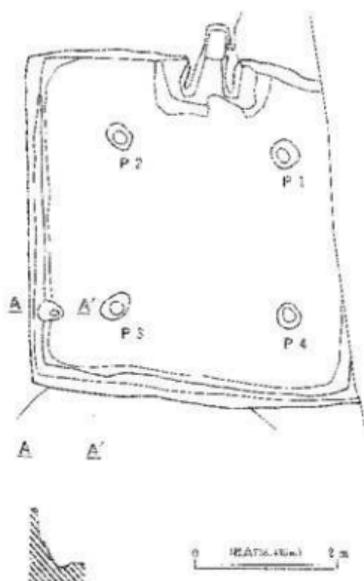


第4图 H1号住居址实测图

覆土である。

本址出土遺物の大半は、第1・2層より出土しており破壊されたものと考えられるが、ほぼ同時期の所産として一括出来るものと思われる。

カマドは所謂「地山削り出し」により袖の芯を掘り方の段階で盛り出している。また、この際にカマドの周囲が東西1.6m、南北0.8mの方形に、北壁部分を除いた壁下が幅20cmのテラス状に厩所よりも一段高く削り残されている。つまり掘り方の段階で本址の床面の高さ、カマドの規格・規模等が決定されている事が窺取される。カマドはこの後床面の版築とおそらくは並行して袖先端部分に石を立て、更にこの両袖先端部分に立てられた石に大井石を懸架し、粘土で被覆していたものと思われる。上記したような構築材と考えられる石は残存していなかったことから、再利用のため本址廃絶時に持ち出されたものと思われる。



第5図H1号住居址様方実測図

柱穴はP1～P4の4基が主柱穴として捉えられた。これらの柱穴は掘り方の版築後の床面敷設前後に掘り込まれたことが掘り方のセクションから判明している。柱基の観察からP3・P4の南側の2本の柱がP1・P2の北側の2本の柱よりも深く埋設されており、本址の上層構造が南側に重量がかかるものであったことを想像させる。柱断面は円形を呈し、φ16cmを測る。

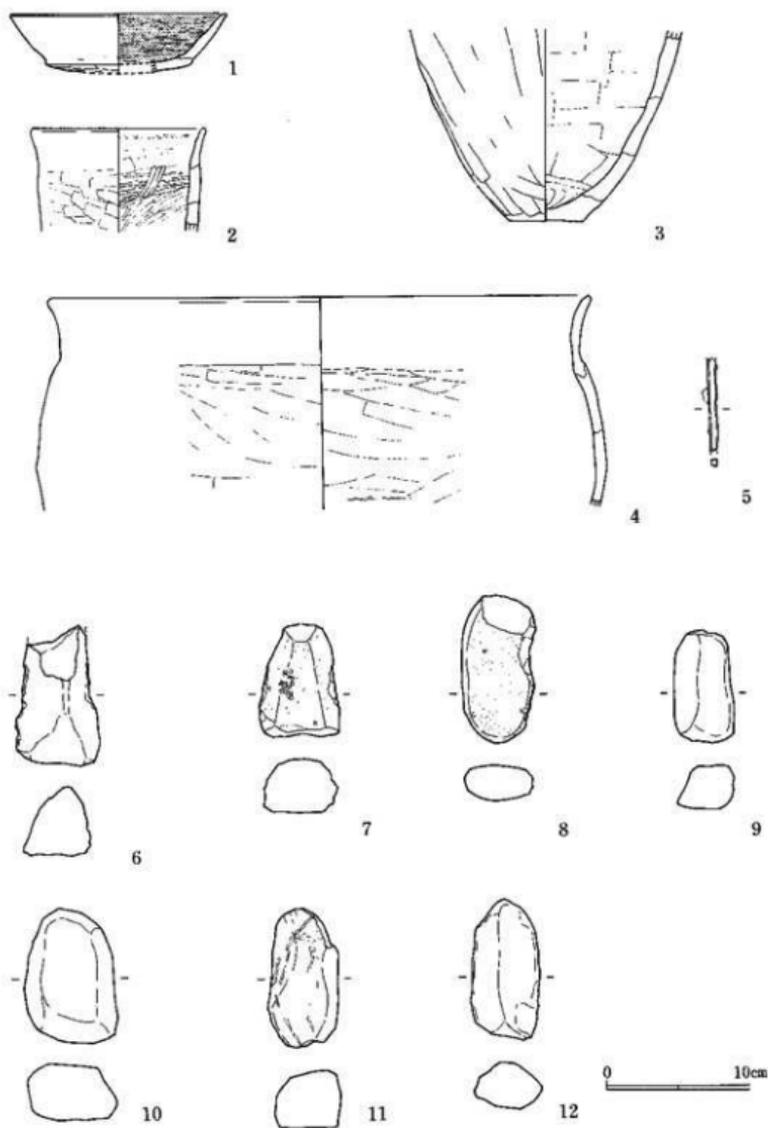
尚、掘り方の状態でP3の壁際よりPitが1基検出されているが、性格は不明である。

前述したように本址の出土遺物は極めて少なく、図化できたものは12点である。このほかには図化不可能な土師器片が数片存在するだけである。以下個々の遺物についてその概略を記していく。

1～4は土師器である。全て非クロコ成形により作られている。1は内面黒色処理が施される杯、2はナゲ調整が施される小型の甕ないしは鉢、3はヘラ削り調整が施される長胴の甕、4は磨き調整が施される胴張の甕である。

5は鉄器の破片である。断面正方形を呈するが器種は不明である。

6～12は所謂「こも編み石」である。6～8は長辺中央部に打ち欠きによるえぐりを作りだしている。9～12は長辺中央部に自然の折れを有しており加工は加えられていない。石材は全てのものが安山岩である。



第6图H1号住居址出土遗物实测图

以上の遺物の所属時期については土師器の特徴から古墳時代後期に位置付けられるものと考えられる。

IV まとめ

聖原遺跡において実践してきた竪穴住居址の床下調査を今回の上芝宮遺跡の調査においても実施した。

このような調査は、かなりの時間がついやされるように思われるかもしれないが、実際にはそれほど大変な事ではないと思う。特に大規模な調査においては調査の手順上いわばロスタイムとなっていた時間を有効に使えるメリットさえある。ましてや、そこから得られる情報は集落論、遺構構造論などの基礎資料として必要不可欠のものと考えている。

例えば、集落の変遷を考えた場合、床下から発見される住居址が建て替えなのか切り合いなのか、床面上で柱が発見できない場合でも本当に存在しないのか、見落としなのかといったように床下を調査しなければ判然としない事が多い。

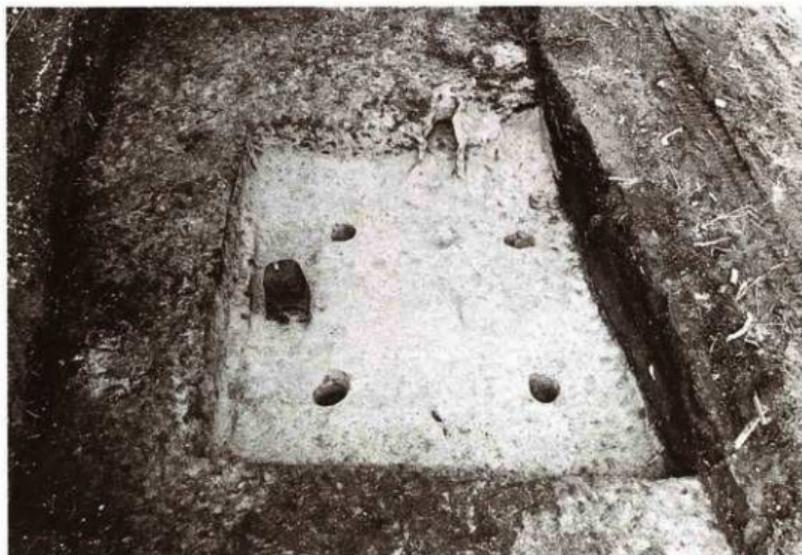
しかし、このような調査を実施して得られた情報の有効な表現方法は難しく、今後の課題である。

引用・参考文献

- | | | |
|------|---|---|
| 1988 | 長野県史考古資料編 遺構・遺物 | 長野県史刊行会 |
| 1989 | 中央自動車道長野編年文化財発掘調査報告書3
—塩尻市内その2— 古田川西遺跡 | 日本道路公団名古屋地設局
長野県教育委員会
(財)長野県国庫文化財センター |
| 1992 | 聖原遺跡II | 佐久市教育委員会
佐久歴史文化財調査センター |
| 1992 | 若宮遺跡II | 佐久市教育委員会
佐久歴史文化財調査センター |



H1号住居址完掘 (南から)



H1号住居址掘り方 (南から)



カマド完掘 (南から)

カマド掘り方 (南から)



カマド完掘 (西から)

カマド掘り方 (西から)



カマド完掘 (北から)

カマド掘り方 (北から)

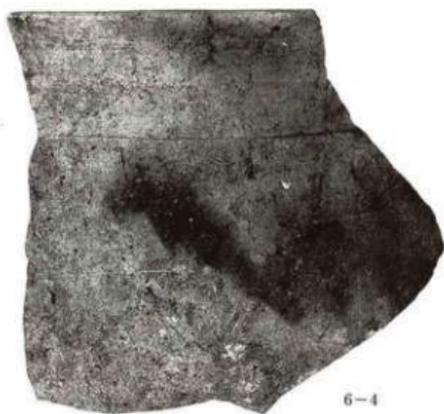




6-1



6-3



6-4



6-2



6-5



6-7



6-9



6-12



6-11



6-6



6-8



6-10

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- 第1集 『金井城跡』
- 第2集 『市内遺跡発掘調査報告書1990』
- 第3集 『石附堂址群Ⅲ』
- 第4集 『大ふけ遺跡』
- 第5集 『立科F遺跡』
- 第6集 『上曾根遺跡』
- 第7集 『三貫畑遺跡』
- 第8集 『龍の下遺跡』
- 第9集 『国道141号線関係遺跡』
- 第10集 『聖原遺跡Ⅱ』
- 第11集 『赤俣屋外遺跡』
- 第12集 『芝宮遺跡Ⅱ』
- 第13集 『上高山遺跡』
- 第14集 『栗毛坂遺跡』
- 第15集 『野馬久保遺跡』
- 第16集 『石並城跡』
- 第17集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』
- 第18集 『西曾根遺跡』

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第19集

上芝宮遺跡

長野県佐久市長上芝宮遺跡発掘調査報告書

1993年3月31日

- 編集 佐久市教育委員会
- 発行 佐久市・佐久市教育委員会
〒385 長野県佐久市大字志賀5953
TEL. 0267-68-7321
- 印刷 株式会社佐久印刷所
